

試験研究評価シート（事後）

評価の種類	事後評価			担当名	
課題名 (研究テーマ)	徳島県における結核菌の分子疫学的解析に関する検討			保健科学担当	
研究期間	平成27～28年度	予算額 600 (千円)	次年度	予算種類	国補・ <input type="checkbox"/> 県単 その他()
必要性	<p>近年、結核罹患率の地域格差が問題となっており、平成24年では徳島県は21.1と全国平均16.7と比較すると高水準で推移し、全国上位（全国ワースト4位）である。このような状況において、本県の結核対策をより推進していく必要がある。結核対策は、感染源の究明が重要であるが、患者調査を主体とした疫学調査に加えて、近年は結核菌の遺伝子型別を行うことにより、さらに正確な感染の実像を明らかにすることが求められており、行政からのニーズも高まっている。</p>				
目標	<p>結核菌の遺伝子型別検査（VNTR法）を効率的に実施できる体制を整備する。さらに、結核患者から分離された結核菌株間の違いを遺伝子型別検査により解析する。得られた結果からVNTR法による菌株の分解能、クラスター株の出現傾向について基礎資料を得る。</p> <p>これらを通じて、結核菌分子疫学調査体制の構築と本県の結核対策推進により県民の健康維持に貢献することを最終目標とする。</p>				
研究内容	<p>遺伝子型別検査（VNTR法）について効率的に行える方法を検討する。また、県内医療機関より提供を受けた結核菌株の遺伝子型別を集積・解析し、VNTR法による菌株の分解能やクラスター形成状況についての基礎資料を得る。</p>				
手法	<p>県内医療機関より提供を受けた結核患者から分離された菌株を対象とし、1)～3)について実施する。</p> <p>1) 液体培地（MGIT、バクテアラート3D）で搬入された検体について、VNTR法の効率化について検討</p> <p>2) VNTR法による遺伝子型別検査</p> <p>3) 2) で得られた結核菌の遺伝子型別情報を集積し基礎資料を作成</p>				
成果	<p>（上記1)～3)における成果）</p> <p>1) 遺伝子抽出法について検討した結果、従来では3週間～2ヶ月必要であったが、約4日に短縮することができた。</p> <p>2) 県内で分離された270株について、検査を実施した。</p> <p>3) 2) より、県内株における基礎資料を作成した。</p>				
その他	<p>（今後の予定）</p> <p>今後もVNTR法による遺伝子型別検査を実施し、県内における結核菌の基礎資料を蓄積していくことにより、徳島県の結核対策に活用する。</p> <p>また、今回の研究結果をより有効に活用できるよう、関連機関との連携強化に努めたい。</p>				